

家庭	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	新学習指導要領に向けて	評価(◎○△)
1年	<p>【知識の定着・利用】 ○中学生に必要な栄養バランスについて学習をしているが、定期考査を過ぎると食品の分類や栄養に関する知識の定着が浅い。 【実践する力・協働】 ○調理実習では意欲的に取り組む姿が見られるが、手順や段取りが経験不足により人任せになっている姿や片付けなどに時間がかかるなど時間を意識して協働することができていない。 【実習の安全面、衛生面】 ○調理の安全面、衛生面の意識はできているものの、実践になるとやや注意不足な部分が見られる。</p>	<p>【繰り返しによる知識の定着】 ○知識を定着すべく、授業内で既習内容を繰り返し確認するとともに、定期考査にも既習内容を組み込むようにし、繰り返しによる知識の定着を図る。 【改善点を見つけ実践する時間の設定】 ○調理実習ごとに班で振り返りを行い、よりよく実習するためには何が必要かを自分たちで考えて改善する時間を長く設ける。 【安全監視と技能習得】 ○実習の中で安全面、衛生面を繰り返し確認するとともに、支援員による補助を引き続き行い、安全管理を行う。また、個々への技能指導を随時行う。</p>	<p>【主体的・対話的な学び】 ○調理実習で行う献立を和食を基本として、日本の伝統的な食文化を中心に扱うとともに、協働・協力に必要なことを考える機会として班で実習の計画・実施・反省の時間を設ける。 【食生活における振り返り】 ○生徒自ら食生活の学習を振り返り、何をどのように学び、何が身に付いたのか振り返る場を設定する。</p>	
2年	<p>【知識の定着・利用】 ○実習や授業の内容を理解しているも、それを実生活に応用して考える力が不足している。 【実践する力・協働】 ○平面で解説している製作手順書から製作する立体形成をイメージすることが苦手とする傾向がある。 【実習の安全面】 ○ミンやアイロンなどの取り扱いに慣れていない姿が見られ、苦手意識を持っている。</p>	<p>【知識の定着支援】 ○学習内容を実生活との関わりで気付き易いように、生活課題を設定し、実生活でも体験する機会を設ける。 【イメージする力を養う】 ○手順書の解説をICT機器を利用し、わかりやすく解説するとともに、自分で手順をみながら考える時間を設ける。 【繰り返し実践する機会を設定】 ○ミンやアイロンなどの取り扱いに慣れるよう、使用方法の指導とともに、自分で繰り返し使用することで感覚を養わせる。</p>	<p>【主体的な学び】 ○生活の中で課題となる事柄を取り扱い、どのように解決していくのか、基本サイクルを明確に提示し、それらを繰り返し実践することで自分で解決する力を養う。 【衣生活・住生活における振り返り】 ○生徒自ら衣生活・住生活のそれぞれの学習を振り返り、何をどのように学び、何が身に付いたのか振り返る場を設定する。</p>	
3年	<p>【知識の定着・利用】 ○授業の内容はよく理解しているも、実生活に活す機会が少ないのが現状である。 【実践する力・協働】 ○知識だけではなく、実体験の経験が偏りがある。 【考える姿勢】 ○学習内容が人生の中で実際に直面する時期が直近ではない内容が多いため、必要性をあまり感じられない傾向がある。</p>	<p>【疑似体験の設定】 ○体験できないことは、疑似体験できる教材を利用し、理解を深められるよう体験しながら理解できるようにする。 【実体験の機会の充実】 ○実生活に関わりのある教材を提示し、解説するとともに、実際に訪問するなどの実体験を意識させることで、考える意欲を持たせたい。 【感想や意見を伝え合う場の設定】 ○色々な人の感想や意見を聞くことにより、視野を広げられるよう伝え合う時間を設定する。</p>	<p>【主体的・対話的な学び】 ○学習した知識を基に主体的に体験の計画をたて、実際に他者とのふれあいを体験することで対話的な学びを体感することで、知識だけでない深い学びの機会を設定する。 【3年間の学習における振り返り】 ○生徒自ら3年間の学習を振り返り、何を学び、何が身に付いたのか振り返る場を設定する。</p>	